

## 埋立処分場からニューヨークを象徴する公園に ～フレッシュキルズパーク～

ニューヨーク事務所

### 1. 21 世紀のニューヨークを象徴する公園

現在、マンハッタンの南、スタテン島においてフレッシュキルズパークが建設中です。完成時にはセントラルパークの約 3 倍、2,200 エーカー (890ha) の面積を有する巨大な公園となります。セントラルパークがこれまでのニューヨークの象徴だとすれば、フレッシュキルズパークは 21 世紀のニューヨークの象徴となる公園になると言われています。それは、同公園でマウンテンバイク、カヤック、乗馬といった、都市では珍しいレクリエーションが楽しめるからだけではなく、地球環境が人類に与える影響を認識し、持続可能性を重視する公園のあり方そのものが、今日のニューヨーク市民の価値観を体現するものとなるからなのです。



フレッシュキルズ公園完成予想イメージ図

### 2. 埋立処分場から公園に

かつて豊かな湿地帯であったフレッシュキルズは、1948 年に初めて埋立処分場としての利用が開始されました。ピーク時の 1986 年と 87 年には、世界最大の埋立処分場として毎日 29,000 トンの廃棄物を受け入れ、「無駄」「過剰」「環境無視」といった言葉がフレッシュキルズの代名詞とされていました。しかし 1996 年に成立したニューヨーク州法により、2001 年での廃止が決定し、埋立処分場としての歴史に終止符を打ったのです。

敷地全体の 45% 近くが埋立処分場として使用されたフレッシュキルズですが、処分場の閉鎖後は、湿地、塩沼、潮汐の通り道として、また、何百の動植物の生息地として蘇ろうとしています。本来の湿地帯そのままの姿に戻ることはできないでしょうが、公園として開発されることで市民の憩いの場としての新たな道を歩み出そうとしているのです。

### 3. マスタープラン

2001 年から 2006 年にかけて、ニューヨーク市は、NPO、州政府等と共同し、国際コンペによりマスタープラン原案を選定しました。現在はニューヨーク市公園・レクリエーション局が開発を進めています。マスタープランは次のような目標が掲げられています。

- 安全で美しく、誰もが訪れることができる公園として土地を再生する
- 環境的持続可能性に対し、革新的かつ責任のある戦略を推進する
- 憩いと魅力に満ちた、他のどこにもない公園を創出し、地元、近郊、そして世界中の人々が訪れる場とする
- 公園を本来の自然、生態系、そして近隣コミュニティと再び結びつける

公園は、北園(North Park)、南園(South Park)、東園(East Park)、西園(West Park)、そして合流園(The Confluence)の 5 つのエリアで構成され、当初 10 年間で北園と南園を整備する計画ですが、全て完成されるのは実に 30 年後という壮大な計画です。



### 4. 持続可能な公園の新しいモデルとして

フレッシュキルズパークの目指すゴールは、ブルームバーグ市長が PlaNYC において設定する 2030 年の達成目標にも合致するものです。公園は、最新のテクノロジーと管理手法により、再生可能エネルギーの供給、雨水の管理、節水、水の再利用、廃棄物削減、地域の生態系の回復を可能とし、無駄の象徴という埋立処分場当時のイメージを覆すことになるでしょう。

### 5. パブリックツアー

ニューヨーク市公園レクリエーション局は、毎月 1 回、フレッシュキルズのパブリックツアーを開催しています。市民は実際の公園予定地を訪れ、パーク・レンジャーからフレッシュキルズの過去・現在・将来の説明を聞くことができます。30 年間の長期整備計画が、現時点でど

の程度進んでいるのかを自分の目で確かめるため、7月21日に行われたパブリックツアーに参加しました。



説明するパークレンジャー



遠くマンハッタンの摩天楼を望む

ツアーの集合場所までは、マンハッタンから地下鉄、フェリー、路線バスを乗り継ぎ2時間半掛かり、ちょっとした小旅行です。ツアーの所要時間は約1時間半で、南園と北園ではバスから降りて360度の眺望を楽しむことができます。南北はマンハッタンの南端から26丁目まで、東西はイーストリバーとハドソン川までに匹敵する面積だと説明するレンジャーの話と、目の前に広がる広大な公園予定地に、改めてその規模を実感しました。

## 6. 自然と都市生活の融合

埋立処分場を生産的で美しい文化の場所に変貌させるというフレッシュキルズパークの整備計画は、土地の再生、景観のバランスや生態系の復元について世界中に手本を示すことになるでしょう。公園を訪れる人々は、水と緑に囲まれた都会のオアシスを楽しみながら、人類が地球環境に及ぼす影響と持続可能性についての知識も学ぶことができます。150年以上前、セントラルパークはニューヨーク市民の生活に自然をもたらしました。フレッシュキルズパークは21世紀のニューヨーク市民に、自然と都市生活を融合させる、魅力的なレクリエーション活動に満ちた新しい公園の姿を示すことでしょう。

ニューヨーク事務所次長 園原 隆（東京都派遣）